

No. J2104

排除のダイナミクス—1980年代におけるインドの政党とマイノリティ

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) 政治・国際学科博士課程

岡山 誠子

## 1. 概要

本研究は、独立以後の75年の歴史において多文化共存の理想を目指してきたインドの事例を通じて、ムスリムという宗教的少数派の政治的排除の問題に光を当てる。特に、セキュラリズムの理念を公式の党是として掲げ、独立運動の頃から既にインド政治をけん引した政党、インド国民会議派による、選挙でのムスリム候補者の擁立を扱った。政党のイデオロギーと同様に重大な、構造的排除のダイナミクスを解き明かす本研究は、民主主義国家における多宗教の平和的な共存を模索するものであり、多文化主義の理念が挑戦を受けている今日の世界に資するものである。

## 2. 研究成果

これまでコロナ禍の影響等もあり苦戦してきたが、インタビュー調査の実施や図書館の文献、電子ジャーナルなどを駆使して研究活動に取り組んできた。現代政治や、南アジア地域研究の広範な蓄積を整理し、論文の土台となる文献批判の部分を拡充してきた。これは方法論の説明にあたる部分や、歴史背景描写についても同様である。実証部分については、一次資料の拡充により、マイノリティ排除の動きの詳細を描き出した。